

「希望 — 愛の中を生きる —」

聖句「主よ、あなたはわたしの希望」—詩編71篇5節—

部会だより

キリスト教  
保育連盟  
神奈川部会  
2011年2月15日  
第119号



『人の一步一步を定める主』  
捜真幼稚園 園長 東間千鶴子

私たちの歩みには、思いがけないことが起こります。ちょうど一年前、私は乳癌の手術で入院し、一月幼稚園を休みました。二回のお産でしか入院したことがなかった私にとって、全く思いがけないことでした。夏の人間ドックで、以前から気になっていた脇の下のしこりを、胸の超音波のついでに見てもらった後、精密検査の通知が来て病院を紹介されました。二学期の間は検査・診察の繰り返し。クリスマス頃、MRI検査ではつきりとがん細胞を見たのです。

聖句

主は人の一步一步を定め、御旨にかなう道を備えてくださる。人は倒れても、打ち捨てられるのではない。主がその手をとらえていてくださる。

—詩編 37編 23・24節—



同じ頃、夫は奈良の教会から招聘を受け、召命感を持って心を決めるころでした。神様は夫には第一に主に仕えることを、私には病身と向き合うことをそれぞれに迫りました。祈り祈られる中、手術・リハビリ・退院後の放射線治療・週一度の抗がん剤治療が続きました。病気を通しての友人も与えられ、励まし合い、悲しい別れもありました。三月夫の引越し、四月次女の結婚式も終え、まことに祝福に満ちた感謝の日々を過ごした翌週から、髪の毛がどつと抜け始め、見事に二週間ほどでなくなりました。まるで一休さんの様・・・。

同じ頃、夫は奈良の教会から招聘を受け、召命感を持って心を決めるころでした。神様は夫には第一に主に仕えることを、私には病身と向き合うことをそれぞれに迫りました。祈り祈られる中、手術・リハビリ・退院後の放射線治療・週一度の抗がん剤治療が続きました。病気を通しての友人も与えられ、励まし合い、悲しい別れもありました。三月夫の引越し、四月次女の結婚式も終え、まことに祝福に満ちた感謝の日々を過ごした翌週から、髪の毛がどつと抜け始め、見事に二週間ほどでなくなりました。まるで一休さんの様・・・。



## 夏期講習会報告

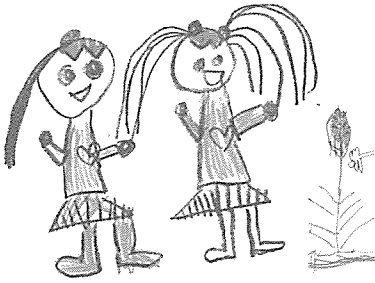
八月二十六日、関東学院大学金沢キャンパスを会場として、学びの時をもちました。

始めに白百合幼児園園長の堀光雄先生に礼拝のメッセージをいただきました。その後、深町正信先生より、「育てたもうの誰か?」放任と過保護の間で」と題して、主題講演を伺いました。

午後は各分科会にて、それぞれの学びを深めることができました。

各分科会から感想を寄せていただきました。

残暑の厳しい夏でしたが、二学期の保育へ向かう熱い力を与えられたのではないのでしょうか。



### A分科会 「お話を語る」

講師 三島敬子先生

「お話」とは昔話や物語を本を見ずに語り、文字に頼らず、声で伝えることだと教えていただき、伝える際には躰ではなく、子どもたちにとって、考えたり、笑ったり、楽しめる時間にしてあげることが大切であり、子どもたちと沢山アイコンタクトをとりながら「お話」をすることが大切だと話してくださいました。

「お話」の内容には子どもたちが親しみやすいもの、登場人物に真実味のあるもの、起承転結がしっくりかきされているもの、耳に聞きやすく、リズムカルで生き生きとした文章のものが良いそうです。

そして、お話を語る時には、子どもが集中して聞くことができるように、静かになれる時間帯や子どもたちが他に興味を向けない環境作りをし、部屋の照明は明るすぎず暗すぎず、互いの顔が見える程度が開き入りやすい空間になるそうです。三島先生から直接「お話」を聞かせていただき、私自身も楽しむことができて、「お話」についてとても興味をもつことができました。

(霞ヶ丘幼稚園 大和田諒)

### B分科会

「豊かな賛美をともに」改定版

「ごもさんびか」を歌おう」

講師 東間千鶴子先生

子どもたちに神様の存在を讃美歌を通して伝えているので、更に深く学びたいと思い参加させていただきました。

例年歌っている曲を伝えることで終わっていましたが、ひとつの曲を子どもが家で口ずさみ、家族や周囲に自然と感謝の気持ちを伝えていたというエピソードを聞かせてくださったたり、神様が導いてくださったこの機会に出会えた讃美歌を、ぜひ保育の中で伝えていきたいと思いました。

伝えていくことで、まずは保育者が讃美歌を好きになること、笑顔で伝えていくことの大切さも改めて感じ、楽譜通りに弾くことよりも、讃美歌とは伝えたい気持ちか形になったものなのだと思います。また、東間先生の作詞された曲に感動し、先生の涙に誘われて胸が一杯になりました。

どうもありがとうございました。  
(のぞみ幼稚園 松本みゆき)

### C分科会

「乳・幼児の造形遊びの困った

場面から」かわりを見直す」

講師 照沼晃子先生

分科会の会場へ向かうと、床一面に新聞紙が敷かれていました。それを見て一瞬「ドキッ」としてしまいました。私は実は絵を描くこと、物を作ることに対して苦手意識があり、「これからどんなことをするんだろう」とドキドキしていました。

そのことを講師の先生とお話しすることができ、中には苦手な子どももいるのだから、と話してください、クレヨンを扱うときは、まず「どんなにおい?」「どんな音?」など、「クレヨンと仲良くなってみる」とから始めたりして、何気なく使っているものでも、導入の仕方によって子どもの中への入り方も違ってくるのだと感じました。

その他、造形での困った場面の写真とお話では、事例と対応の仕方などを知り、とても勉強になりました。暑い中、私たちのために準備してくださいました。ありがとうございます。

(私塾まきば 久野愛海)

## D分科会

「幼児うたの表現を考える」

講師 東卓治先生

子どもたちが、のびのびと楽しくうたを歌うためにはどのような工夫ができるか学びたいと思い、参加させていただきました。

D分科会では実践を通しながら、東先生のお話を聞きました。なかでもボールや運動器具を使った発声練習に最初は驚きました。しかし、直立したままで歌った時よりも大きな声が出ており、身体を自由に動かしながら歌うことによって、緊張がほぐれ、自然と声が出ていることを実感しました。楽器がなくても自分自身の身体を使って遊ぶ楽しさ、身体も楽器だということをあらためて学びました。表現力の豊かな子どもたち。そんな子どもたちと一緒にこれからもたくさんうたを歌い、毎日笑顔で過ごしていきたいと願っております。

(高座みどり幼稚園 二見真以)



## E分科会

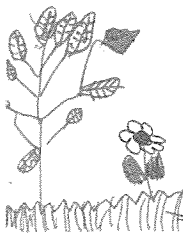
「子どもに語る聖書のお話」

講師 小野慈美先生

講師の小野先生は、お話の準備の仕方から実践まで、一つひとつ丁寧に教えてくださったので、とても勉強になりました。その中でも特に心に残ったのは「愛の三角関係」のお話です。良い子にならないければ神様に愛していただけないのではなく、神様はそのままの私たちを無条件で愛してくださっていること、また周りにいる人のことも自分と同じように愛してくださっているということをもっと子どもたちに伝え、一人ひとりの自己肯定感を高めていく保育をしていかなければと感じました。

今回の講習会に参加でき、キリスト教保育に携わる者として、豊かな学びの時を与えられましたことを、心から感謝いたします。

(神奈川幼稚園 根岸里早)



## F分科会

「多様な子どもを理解する」

保育の難しさを楽しめる  
講師 若月芳浩先生

保育者として自分の理想とする保育や、自分の定まっている保育の仕方があるということは、もちろん大事だけれど、その型にはまり過ぎてしまったりすることはよくないということ改めて実感することができました。

担任をしていて様々な子どもがいる中で、「気になる子ども」や「障がいのある子ども」がいると、その子どもたちを自分の固定された保育の枠に入れようと思いがちになってしまうと、若月先生からお話がありました。その時に、その枠に子どもを入れようとするのではなく、自分の枠を広げるといように発想を変えることが大事だとわかりました。

そのためには常に、自分の保育を振り返る心、他の先生方との連携、そしてやはり子どもを思う気持ちが大切だと思いました。

(桜ヶ丘幼稚園 小田島ゆり)

## G分科会

「食物アレルギーのある子どもへの関わり・その難しさ」

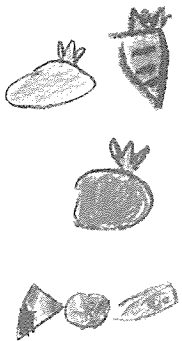
講師 長谷川実穂先生

現在、アレルギーを持っている子どもたちが増えている中で、食物アレルギーの基礎と内容・症状を改めて具体的に学ぶことができました。

食事のポイントとして、「食べられる物をおいしく食べて食生活を「楽しむ」という言葉が印象に残り、保育者は保護者としてしっかりコミュニケーションを取りながら共通理解をし、共に考え協力していくことが大切だと強く感じました。

そして、食物アレルギーを持っていない・いないに関わらず、子どもたちにとって、「楽しくおいしい食事」が何よりも重要であり、日々の保育の中での声掛けや雰囲気作りの工夫を心掛けていきたいと思えました。

(宮の台幼稚園 田村友香里)



## 第二回 講演会報告

十一月十七日(水)

テーマ

「子供の心に寄り添う

―共に育つために―

日本アライアンス教団千葉

キリスト教牧師 山中正雄先生

清水ヶ丘教会にて

講師の山中先生が、牧師として、精神科医として、父親として、ご自身の経験からのお話をたくさん伺いました。

始まりに、人間が生きる土台として大切な命の意味を改めて考えさせられました。聖書の視点から、命の主権者は神にあつて人間が自由にすることはできないということ。幼子の命も高齢の方の命も命あるもの全てが平等に尊い命であり、愛すべき命を大切にしなければならぬことを、イエス様が幼子を祝福した場面が教えてくださっています。私たち保育者は、命のおもさを神様の前で受け止めて愛を持った保育をしていかなければならないのです。

子どもが成長するプロセスには、保護者の愛情が不可欠である。当た

り前だと思うことだが、現代の子の両親がどのように自分の子どもと向き合っているのか、かわからない人が多くいるのだという。赤ちゃんが生まれて3カ月の母子関係が決定的に大きな意味がある。親に抱かれる。暖かな目線。スキンシップ、アイコンタクト。身体的な保護を受けることで赤ちゃんは敏感に親の愛情を感じているのだそうです。そして、父・母の役割が違うものであることが大事。親と子、家族関係や生活面の欠如が感じられる世の中になつている今、他人同士の人間関係にも問題が表れていること。相手とほどよい加減の付き合いがでずに密着しすぎてしまう。反対に希薄しすぎてしまう。人と人との関係のバランスがとれずに不安を抱えている人が増えていくようです。先生は、そういった悩みをお持ちの方々にカウンセリングで日記をつけることをすすめて見つけているそうです。自分の気持ちを見つければ、客観的にチェックができて少しずつ人間関係の距離がとれるようになっていくそうです。

人は絶対にひとりでは生きていけない。私たちは、相手がいるから安心でき、自信が持て、自由があり信仰をもって希望を持つことができる

ということ。目に見えない価値に気づくことができるのです。と、先生のたくさんのお話から、大勢の先生方と共に学びの時を持つことができました。私たちができることを、改めて考えてみましょう。かけがえのない小さな命を持つ子どもたちの輝きを大切に守っていきたいですね。

鶴沼めぐみルーテル幼稚園

前田 恵里

### 保育環境研修会

十一月十三日(土)

テーマ

『子どもと共に育ちあう環境』

宮の台幼稚園にて

初めに、笹野園長先生司式による礼拝を捧げ、その中のお証しで畠和子先生の長年の保育に携わる尊いお働きと共に、熱い祈りと不思議な導きで、ふさわしい土地と新園舎が与えられたことをお聞きしました。その後、笹野信治園長先生より、宮の台幼稚園がどのような教育方針のもとに保育をし、環境を整えているのか、保育者として大切にしたいこと、また近年、私たち保育者が、保育の現場で難しい

と感じている、特別な配慮を必要とする子どもの受け入れについても、詳しくお話を聞くことができました。また、保護者を対象に、園への感想、意見などの無記名のアンケートの実施や、入園志願の感想を具体的に聞くなどのことは、より良い園作りをしていくにあたって、改めて考える良い機会となりました。そして、おいしいお食事をいただいた後で、自己紹介を兼ね、他園の先生方と情報交換をし、いろいろな条件は違っても、同じキリスト教保育に携わり、それぞれに頑張っているつしやる姿に、力を与えられました。そして午後は、実際に園舎の中、お部屋の使い方などを説明していただき、園庭、グラウンド、畑などの見学をさせていただきました。なかなか他の園を見せていただく機会がないので、とても勉強に、また参考になる良い時とさせていただきました。宮の台幼稚園の先生方、ほんとうにありがとうございます。

希望ヶ丘教会付属めぐみ幼児園

大橋満香



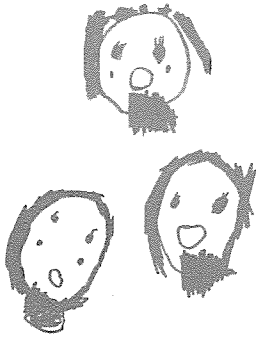
# 園長・主任会報告

久しぶりに研修会が一月九日から十日にかけて奥湯河原にて開催されました。先生方の関心のある内容のせいか、出席人数も二九名と多く充実した会となりました。

部会に所属する三園の先生方の「幼稚園の機能としての預かり保育」「子ども園に向けて―地域に根ざした保育園の現状―」「横浜市私立幼稚園平日型預かり保育・特例保育をはじめて」の発題を出席者一同じっくりと傾聴しました。話し合いでは、発題を基にそれぞれの園の課題を聞き合い、その中で子どもたちの成長のために家庭を含めて私たちは何をなすべきか、キリスト教保育の園だからこそ一人ひとりを大切にしたい保育は何かを話し合いました。

ひかりの幼稚園・めぐみの幼稚園

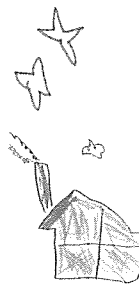
園長 豊嶋ときわ



## 「不思議だな」

高見保育園 園長 小川富美枝

高見保育園の歳は今年で五十二歳、園舎はボロでちよつと危険がいっぱい。その子どもたちも元気が走っている。二年前、元お母様たちが五十歳のお祝いをしてくれた。今年は、元と新お母様たちがお揃いのエプロンつけて、フレンドシップ高見に参加したよ。笑顔の花がいっぱい。お客様もいっぱい。お琴を弾いてくれた人、チェロ・ピアノ等の四重奏。リトル・ジョイのノアさんの「はくさい夫人」に涙したり。そうそう、山元加津子さんの「宇宙(そら)の約束」の映画と共に、地球にも羽ばたいっているよ。不思議だな。



## 「みんなのおうち」

平塚二葉幼稚園 堀口由利子

園庭の銀杏の木の下に建っている



「みんなのおうち」。これは年長組の子どもたちが卒業記念に、設計から材料の買い出し、材木を切つて打ち付けるところまでを一生涯やってくれたものです。ペンキも塗つて可愛らしい絵を描き、入り口の扉の上には、「みんなのおうち」という看板もつけてくれました。今も、おままだごとのおうちとして大活躍です。子どもたちの知恵と力と思いが沢山詰まった掛け替えのない一軒家です。

## 「喜びに満ちあふれた園生活」

金沢キリスト教会附属よるこび園

セルバトナム稚子

よるこび園はイエス様の愛を伝えるために創立されました。家族的な雰囲気でもみんな仲良しです。子どもたちが自由に遊びこむ時間を大切にしています。また園の行事にも子どもたちは大活躍です。運動会、クリスマス、特に年長さんは、全体のリーダーとして力を発揮します。異文化交流も行い、横須賀アメリカ基地内園との交流では、文化・言語を超えて楽しい時を過ごします。在園中にイエス様に出会い、卒業後も教会につながり、洗礼を受ける家族もいます。

## 「ホール壇上の床」

中山幼稚園 野末晃秀

幼稚園のホール壇上の床は、ヒノキの板で張られている。傷も多いが、その輝きには現代の素材にはない質感がある。この板は六十年以上前に建てられた最初の中山幼稚園の床に張られていた素材を使い、今の新しい建物に再使用したものだ。今まで四千七百人以上の園児がこの床を踏んで小学校に、そして社会へと旅立つて行った。五千人めの園児がこの床から卒業していく時にも、その輝きに負けないように幼稚園も輝き続けていられるよう頑張りたい、と思う。

## 「創立者からの贈り物」

恵泉幼稚園 園長 大森美保子

果てしなく広がる青空の下、お母さんたちの丹精込めた花々が香り、手間隙をかけてこそ感じる子育ての喜びと重ね合わせています。子どもたちは、緑の芝生を走り回り、土の山を駆け登り、一年中、川作りに興じています。時には先生を落とす穴を掘つて、茶目づきを振りまいています。すべてが夢中です。手を加えない自然に吸い込まれると心がワクワクします。創立者が残した広い園庭の自然に抱かれて、のびやかな心と感謝の心が育つています。

## 「福音幼稚園のご紹介」

福音幼稚園 園長 佐竹拓平

一九二七年に創立され、今年で八十三周年になります。現在ある川崎市内の幼稚園の中では一番古い幼稚園になります。アメリカから来た宣教師たちの協力で、礼拝堂と園舎が建てられ、教会の宣教と共に幼児教育が行われてきました。現在も、神を敬い、人を愛する心を培い、個性を重んじ、創造性豊かな自立性に富んだ明るい子どもに成長するよう心身の育成を図っています。川崎区の中心地にありますが、園庭の樹々には野鳥が訪れ、四季折々の花が咲き、果実の木々もあり、豊かな自然に恵まれています。

## へ役員会報告

書記 田名綱 仁

十一月十八日(木)に清水ヶ丘教会にて二〇一〇年度第六回役員会が行われましたので報告いたします。

### ◆保育環境研修会

十一月十三日(土)に宮の台幼稚園にて行われ、二十名の方が参加されました。

### ◆第二回講演会

十一月十七日(水)清水ヶ丘教会において行われました。講師は、日本アライアンス教団千葉キリスト教会牧師で精神科医の山中正雄先生。八十名の方が参加されました。

### ◆クリスマス礼拝

十二月一日(水)清水ヶ丘教会にて行われました。説教者はカンバーランド長老キリスト教会めぐみ教会の荒瀬牧彦牧師。

### ◆園長・設置者・主任研修会

二〇一一年一月九日(日)・十日(月)湯河原の「清巒荘」にて行われます。

◆中瀬新生保育園(日本パプテスト同盟 大師新生幼稚園に属する施設)がキリスト教保育連名神奈川部会に入会いたしました。

### ◆夏期講習会

二〇一一年八月二十三日(火)講師は渡辺和子先生を予定しています。

## 神奈川部会に新しく

### 入会されました

## 中瀬新生保育園

園長 田中愛子

二〇一〇年三月二十三日、多くの参列者に祝福されて、開園式が行なわれました。

四月一日、六十名の園児を迎えて中瀬新生保育園の保育がスタートし、福音の種が蒔かれました。

多摩川土手の近く、高層マンションに囲まれた、二階建ての新設認可保育園です。

初年度は四、五歳の入園児が少なかったため待機児童の多い一、二歳児が多くなりました。

開園時間は、

七時～二十時、  
十八時から  
延長保育になります。なかには一日のうち十二時間近くを保育園で過ごす園児もいます。

園では、完全手作り給食を



実施しています。昼食時、園児たちは給食を楽しみに、喜んで食べています。食生活の現状を思う時、食育の大切さを痛感します。

毎週木曜日には、園児たちと共に礼拝を守ります。乳児、幼児全員で礼拝を守ることが目標でしたが、行



事ごとのできるようになり、神様のお守りの内にあることを感謝しております。これからもお話を真剣に聴く子どもの心が、神様の愛で満ち溢れるよう、祈りつつ礼拝を大切にしていきたいと思えます。

専任、嘱託職員二十三人のうち、キリスト教に初めて触れる保育士が多く、キリスト教保育をどのように理解し心にとめ、毎日の保育の中に取り入れていくかが、これからのこの園の課題です。

「キリスト教の信仰に立って、

子ども一人ひとりに与えられているのち、人格、個性、感性を大切に  
して尊び、それぞれの成長を共に喜  
び育てる。」

という目標をもって、イエス様の愛  
に満ちた保育園でありたいと祈りつ  
つ新しい園のスタートをきりました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

### 《訃報》

神奈川部会の会友 山崎ミネ子先生  
が十二月二十日に召天されました。  
主の平安をお祈りいたします。

### 編集後記

お忙しい中、多くの先生方のご協  
力をいただき、部会だよりが発行で  
きますことを感謝いたします。

原稿をお寄せくださった先生方、  
ありがとうございます。

まもなく単立っていく子どもたち  
の上に、主の恵みが豊かにあります  
ようお祈りいたします。

発行日 二〇一一年二月十五日

発行所 茅ヶ崎市芹沢九一三

ひかりの幼稚園

編集者 神奈川部会 広報担当